

都公中事 KaihO

編集発行

平成16年11月25日発行 第357号

東京都公立中学校事務職員会

代表 立野忠義（足立区立第十中）

編集 佐藤重雄（板橋区立加賀中）

連絡先 〒173-0003 板橋区加賀 2-19-1
03(3964)1954

八木（八王子）吉野（清瀬）井上（中野）
横山（江戸川）

第40回東京都公立学校事務職員研究協議会（小・中・都立）研究大会 及び関東地区学校事務研究会（千葉大会）のご案内

第40回東京都公立学校事務職員研究協議会（小・中・都立）研究大会について

来る12月14日（火）東京都教職員研修センターにおいて東京都公立学校事務職員研究協議会（小・中・都立）研究大会が開催されます。今年度は、都立学校が主管で行われます。中学校は、第2分科会を担当します。研究発表は多摩支部が「Excelを使った業務改善」をテーマに研究発表をいたします。

一人でも多くの参加をお待ちしています。

第2分科会 研究発表概要

Excelを使った業務改善 - 定型業務の効率化を目指して

多摩市立和田中学校 岡田 孝文

多摩市支部では標記の内容について、以下のような発表をいたします。

現状と背景についての説明

多摩市内には、10校の中学校がある。各校に都及び市職員1名、計2名の事務職員が配置されていた。

しかし、今年8月より市事務職員の引き揚げが行われ、事務室の職務環境は激変した。市事務職員に代わる臨時職員は配置されたが、事務経験に乏しく、実務を担当するにはかなりの時間を要する。

そもそも、学校職員の担当する仕事の範囲は広い。（給与、旅費、共済、互助、予算執行、施設維持管理、備品点検、補助金、就学援助、福利厚生...）

現在はそれら多くの仕事を、主に都事務職員1名で担当している。このような状況の中で、ひとつの業務の遅れが他の業務を圧迫し、慢性的な忙しさを生み出している。そのため業務担当者には、限られた時間内で迅速・正確に業務をこなすスキルや工夫が求められている。

職務環境のプラス要因として、事務室にPCが配置されたこと、市役所と学校間でLANによるグループウェアシステムを使用できるようになったことが挙げられる。

現状における課題

現状の業務内容や問題点を分析した所、日常業務の中には、定期的な書類作成や集計作業など各校共通の定型業務も多く存在し、各校がそれぞれの方法で苦勞しながら対処していることがわかった。

換言すると、各校で作成した書類の内容は同じでも、処理過程の違いにより作業時間や労力及び、正確性において、かなりの差が生じており、この点を改善することが重要な課題として浮かび上がった。

課題への対応

Excelを使い、誰でも簡単に入力できる標準テンプレートを検討、導入することにより事務効率の向上を図る。それらをグループウェアのメール、掲示板、ファイル備品に活用し、利用推進を図る。

活用事例紹介

実際の Excel ファイルで改善効果を紹介し、Excel 作成のツボや便利機能紹介、関数設定等も解説します。予算執行、物品(備品)管理、特勤業務管理、旅費、名簿作成、賃金計算、成績処理など (CD配布)

その他

Excel中級レベルの方を対象にした発表を考えています。具体的には『セルの書式設定』と『基本的な関数』を使って、自分で『シート作成』ができるレベルの方。VBA 知識は不要です。

Excelを使ってエンドユーザーコンピューティングをしている方は、ファイル作り等大変でしょうが、そのことにより各地区での事務の効率化が前進して行くのだと思います。今回、発表させていただく参考ファイルは、自由に加工、編集して活用できますので、これからの活動の参考にさせていただければ幸いです。

関東地区学校事務研究会(千葉大会)について

来る1月27(木)~28日(金)、千葉県千葉市において関東地区学校事務研究大会(千葉大会)が開催されます。東京中支部は、28日の第1分科会で板橋支部が「子どもたちの未来を拓く 学校施設をめざして」をテーマに研究発表をいたします。一人でも多くの参加をお待ちしています。

第1分科会 東京中支部 研究発表概要

「子どもたちの未来を拓く 学校施設をめざして」 - 板橋区立中学校施設設備指針案と学校施設の手引き -

板橋区立志村第四中学校 村木 栄一

関東地区学校事務研究会(千葉大会)で、板橋から発表させていただくことになりました。

いまほど、学校事務職員の存在を社会的にアピールしなくてはならない時ではないでしょうか。

東京の中でも各地で学校事務職員の引き上げがすすんでいます。板橋区でも来年度から永年維持されてきた三名体制が崩されようとしています。事務職員会として、校長会やPTAにも働きかけ、学校事務職員の学校教育に果たす役割について訴えました。いま東京で進行している動きは、学校事務職員が学校教育に力を発揮すべきときに逆行するが如きものです。板橋の発表は、そうした動きを踏まえ、真っ向から問題提起するものにしたいと思って準備しているところです。

学校事務職員の重要な職務のひとつとして、「生徒が安心して学校生活を送ることができるように、学校環境を改善し、あわせて安全の視点から施設の準備の維持をはかる」ことがあげられると思います。文部科学省や板橋区が考える学校施設のあり方をふまえながら、現場で日常的に施設設備のメンテナンスに苦勞している学校事務職員の立場からつくりあげてきた「板橋区立中学校施設整備指針案」と「学校施設設備の手引き」を関東の仲間にし、批判検討してもらおうと思います。

今回は、さらにエコスクールの観点から雨水利用についても問題提起します。高島第三中学校での取り組みは、学校事務職員の可能性が無限であることを示しています。学校事務職員は、さまざまな人々の力を繋ぎ合わせる位置にあるのではないのでしょうか。私たちの想いがどれだけ関東の仲間に伝えられるかわかりませんが、精一杯発表しますので、東京のみなさんの力強い応援をお願いします。また、私たちの研究については、板橋区教育委員会事務局学校施設係のみなさんのあたたかい励ましと具体的なアドバイスにあることをぜひお伝えしておきたいと思います。

学校紹介

今回は、八王子市立高尾山学園中等部をご紹介します。

八王子市立高尾山学園中等部 佐藤 裕之

新宿からJR中央線で西へ1時間、終点の高尾駅からバスで10分ほど乗りますと、公立小中学校では全国で初めての試みである不登校児童生徒のための八王子市立高尾山学園に着きます。本校は今年の4月に八王子市内小中学校あわせて106校目の学校として、また、初めての小中一貫校として開校しました。

【環境】 ハイキングや行楽でおなじみの高尾山。それに続く多摩丘陵の標高200Mほどのところを25年ほど前に宅地造成した高層団地の一角に本校はあります。八王子市でも児童数の減少から統廃合になる小学校が出始め、高尾山学園がある団地内にあった2つの小学校も一昨年度統廃合され一つになりました。その廃校になった小学校に耐震工を行い、教室の一部改修して開校しました。団地内とはいえ、西側に高尾山、周囲は多摩丘陵ですから緑は多く、自然環境には恵まれています。ただ冬は、都心部より2～3度低い八王子ですが、その八王子市街よりさらに2～3度低くなり、寒さに弱い人には辛いかもしれません。また、例の「スギ花粉」。発生源のスギ林が高尾周辺に多く、こちらに異動すると、今まで発病(?)していなかった人も立派な花粉症の仲間入りがすぐできると密かに噂されているのが難点です。

【構造改革特区】 八王子市が「不登校児童・生徒のための小中一貫による体験型学校」として構造改革特別区域申請を平成15年4月に行い、教育方面では第1号として認定されました。構造改革特別区に認定されますと、学習指導要領にとられることなく、体験学習に重点を置いたり、自由な時間割りや学習内容を構成できるなどの特色ある教育課程の編成が可能になっています。

【高尾山学園】 今年の4月に教職員が配置され正式開校しましたが、実質的には、昨年の夏から「プレ開校」として児童生徒を募集しています。学校生活に慣れるという意味で工作・実験・スポーツ・ゲームなどの活動が、学生ボランティアにより現校舎施設を利用して行われていました。



小学部16名(4～6年)中学部103名のあわせて119名の児童生徒が在籍しています。通学範囲は、7割が八王子市内からで、あとの3割の生徒が市外からの通学です。教員18名の他、常勤のスクールカウンセラー2名、市の児童構成員2名、アシスタントティチャー、指導補助員ら総勢35名の職員構成となっています。

【ブレイルーム】 華道・木工・手話など外部講師による体験講座という授業が週2回設定され、子供たちは希望の講座に参加し、体験活動をおして学校生活を楽しめる工夫がなされています。また、旧視聴覚教室を利用したブレイルームがあります。市の児童構成員が運営し、地域の児童館のように子供たちがいつでも集まって活動できるようになっていて、子供たちに人気がとても高い部屋となっています。

【不登校】 4月の開校以来、いままで遠い存在でしかなかった不登校問題を直接、現場で体験することになりました。登校してくる生徒が、ついこの前まで不登校だったとは思えないくらい元気に通ってくる姿。また、各地から学校に寄せられる不登校相談内容からも不登校の深刻な現実を事務室でも痛感しています。学校全体が、毎日手探りで少しずつ進んでいるという状態ですが、先日小学部、中学部が1泊の移動教室と修学旅行を実施できました。大きな一歩前進だったねと職員一同心に思う今日この頃の職場です。

広報委員会

会報第357号を発行いたしました。今回は、小・中・都立研究大会及び関東地区事務研究大会で、発表する支部の発表概要を中心に掲載しました。ご覧ください。

今後の予定 会報第358号 12月発行予定 都公中事研究大会案内他 会報第359号 3月発行予定

都公中事研究大会集録 2月18日大会当日発行 小・中・都立研究大会記録集 3月20日発行予定